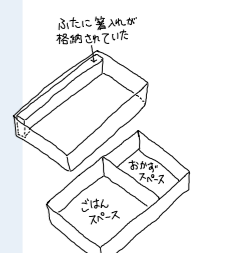


特集



あのころ君はよく食った 三丘生の昼ごはん



昭和30～40年代に流行したアルミ製弁当箱

SS 弁当箱にも規定、推奨は柳行李

旧制堺中時代、それも明治〜大正期については資料も限られる。『六十周年記念誌』によると寄宿者、通学者の弁当は「皆柳行李の弁当箱で包みは白布でした。アルミニウム製は許可されませんでした」(中11期・田中慶治さんの談話)

その後、大正6年(1917年)頃の【生徒保護者心得(改定)】では「生徒の弁当は長方形柳行李又はアルミニウム製とし、成るべく大きくして食料の少なからざるを、各自携帯して登校せしめられたし」となっている。

SS 寄宿舎の献立は炊事委員が

朝食Ⅱ芋汁、昼食Ⅱおむねつ、夕食Ⅱ焼き魚・キャベツ―これは堺中の寄宿舎の献立の一例。当時は交通の便が悪かったことから寄宿舎があった。中学校創設の翌年(明治29年)竣工、以後、大正13年に廃止されるまで、最も多かったときで87名、平均45名の舎生がいた。

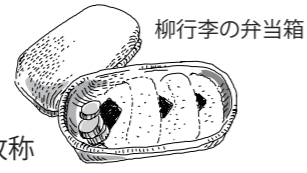
寄宿舎の食事は、舎生から1名を選び炊事長として「一切ノ取締リニ任ジ」、炊事委員2名が献立表を作成し、雇いの炊夫が買い物と料理を請け負うという生徒の自治にもとづくものであった。

SS 藤田のパン

昭和初期、昼食は弁当のほか昼食時にパンの販売があり、「藤田のパン」と親しまれていた。

SS 豆がす入り握り飯

戦時中は堺中生たちも勤労奉仕、勤労動員に明け暮れる毎日。そして食糧事情が急速に悪化していった様子は前号の特集「堺中生たちの戦争」にも見られた通り。



SS 三国屋時代の幕開け

昭和30年代〜平成前半はまさに「三国屋」の時代であった。昼食に、間食に、放課後に、三国屋を一度も利用したことがない生徒は少なかったのではないだろうか。学校正門前の店舗だけでなく、昭和32〜46年まで14年間は校内食堂の運営にも携わった。正門前の店舗も「学校の公認食堂」であった。

SS 値上げは大問題

当時の三国丘高校新聞ではたびたび学校食堂ネタが紙面をにぎわせた。昭和40年6月の紙面では「三国屋再度値上げ」の見出しが躍り、「カレーライス60↓65円、いなりずし2つ17↓19円、麺類それぞれ5円」値上げされたことについて「三国屋にも事情はあるだろうが、消費者の立場にたって、今後値上げしないように、してもらいたいものだ」と厳しい論調。

また、お昼の食堂は常に混雑していたため「弁当を持参しておしやべりするのはいかがなものか」(昭和40年7月)といった苦言もみられる。「昼食時には大変混雑するから、食券は三時限と四時限の間に前もって買って置く」(昭和43年4月)ことが推奨されていた。

SS やきそばとためてん

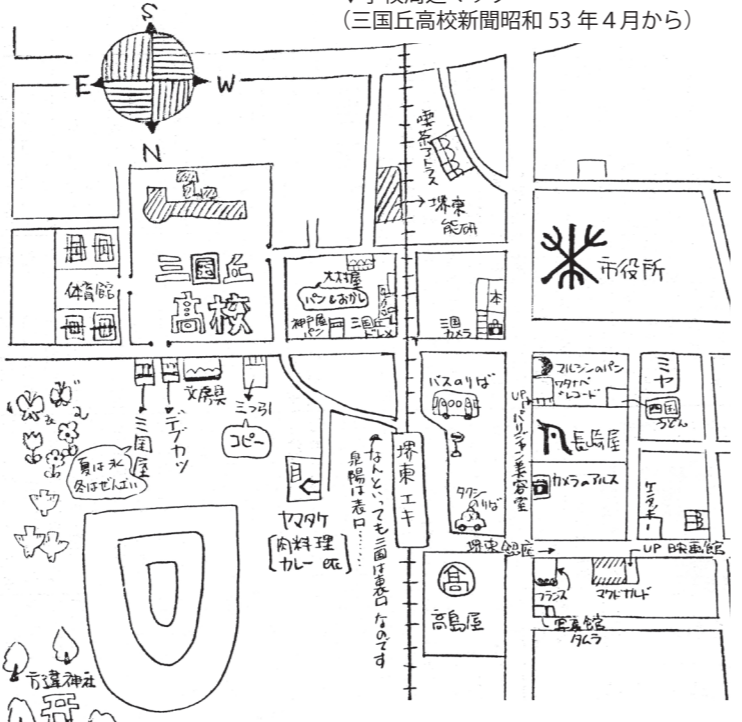
「三国屋」と言えば反射的に返ってくる言葉が「やきそば!」。とにかく早く、安く空腹を満たすことができた。味付

三国屋再度値上げ

昭和40年4月、三国屋が再度値上げを行った。この際、生徒たちは「やきそばとためてん」を食して、空腹を満たすことができた。味付



▼学校周辺マップ (三国丘高校新聞昭和53年4月から)



SS 伝説のデブカツ

昭和40〜50年代、三国屋の西隣にあったデブカツは、特に男子生徒に愛された店だった。カレーの他、大量の焼き飯の上にトンカツをのせ、タレをかけた「カツ焼き」など豪快なメニューがあった。「このカレーは、具がほとんど形をとどめないほど煮込んであり、ちよつと酸味があってとても辛く私の大好物でした」(高24回・飯内佐斗司さん) 三丘会報47号から

SS 外出は黙認?

この頃、外出はほぼ黙認されていた。校内食堂が混んでいることもあり、遠征先はやまたけ、デブカツからタカシマヤ、四國、珉珉、堺市役所の食堂にまで及んだ。「我が校では、昼休みの外出についての規則はないが、これは生

けは塩味。好みでソースをかけた。また、ユニークなメニューとしてはかき揚げ天ぷらと甘い三角の揚げが中華麺(やきそばと同じ麺?)の上にトッピングされた、高校生にはぜひいたくな「ためてん(たぬきてん)」。焼きそば大盛り+いなり3個が定番だった。男子(高19回)、「ためてんを食べた後、アイスクリームを食べながら教室へ帰ってきた」女子(高21回)等々、三国屋のメニューをいろいろ組み合わせるとは旺盛な食欲を満たした。



在校生に弁当箱を見せてもらった。形も機能もいろいろだ。

SS そして、今…

現在の三丘生のほとんどが自宅から弁当、またはコンビニで買って来たものを持参して教室で食べている。中には弁当を友人と食堂で食べるという生徒もいるが、外出する生徒はいない。早弁する生徒がいるのは今も同じだ。食堂の利用は生徒の1割くらい。サイドメニューのものがよく出るが、日替わりメニューでは水曜日のオムライスが生徒にも先生にも人気だそう。昼食時を告げるのは校歌の前奏のメロディを取り入れたチャイムである。

パン・その他コーナー		麺類コーナー	
揚げたこやき	130	カレーライス	250
アイス	130	うどん	250
...	...	...	...

▲現在の学校食堂のメニューの一部。フライドポテト、揚げたこやきはそれぞれ130円。アイスも販売。



▶現在の学校食堂



▲三丘資料室に保存されている三国屋の箸袋

明治 大正 昭和 平成

- 大阪府第二尋常中学校
- 明治 28 (1895) 大阪府第二尋常中学校として創立 入学者数 156 人
- 明治 32 生徒定員 500 人に
- 明治 34 大阪府立堺中学校と改称
- この頃、現在のチャイムにあたるものは、ラッパであった。堺中生たちはラッパが鳴ると同時にパン売り場に駆けつけたりした。昭和校舎落成とともに、ラッパはサイレンに変わる。
- 昭和 7 (1932) 昭和校舎竣工
- 昭和 10 生徒定員 1000 人に
- 昭和 23 学制改革により大阪府立三国丘高等学校発足、男女共学が実施される ★共学になって男子の早弁を初めて見た女子生徒はびっくりしたという
- 昭和 26 定時制課程創設 ★定時制課程では「昼」ごはんではないが、創設時から、校内でパンが販売されていた。その後、昭和 40 年代にはコッペパンと牛乳の「補食給食」が実施されていた。
- 昭和 27 同窓会運営の食堂設置
- 昭和 27 頃 三国屋が営業開始 (同窓会誌「三丘」に広告あり)
- 昭和 32 校内食堂、三国屋が運営開始
- 昭和 39 堺タカシマヤがオープン
- 昭和 39 生徒定員 1500 人に
- 昭和 40 本館東側プレハブ棟完成、1階に第二食堂オープン
- 昭和 46 3月末で三国屋が校内食堂の運営を辞退(正門前の店舗は営業を続ける) 4月から大和食品に、以後、業者はしばしば交替 新体育館1階に食堂。本館東側の第二食堂は閉鎖
- 昭和 56 ジョルノがオープン
- 昭和 61 生徒定員 1800 人に
- 平成元 (1989) 生徒定員 2304 人に (これ以降減少)
- 平成 6 新校舎本館完成、旧校舎解体
- 平成 16 1月、「新学期より授業中は正門・通用門を閉鎖」となる 12月 三国屋が閉店
- 平成 17 定時制課程、補食給食から デリバリー方式の完全給食に
- 平成 27 生徒数約 1000 人
- 平成 27 定時制課程の給食、利用者減で廃止 ★定時制でもコンビニを利用する生徒が増えている

三国屋時代